

Ex-1

Riff Play

素早いピッキングが要求されるメイン・リフ

●4～5小節目のスケールはFマイナー・ペンタ。弦移動が激しいため、ピック先端を指先からあまり出さず、出来るだけ小さな動きで。各6連符の頭に少しアクセント(強)を付けると、それが勢いになる。

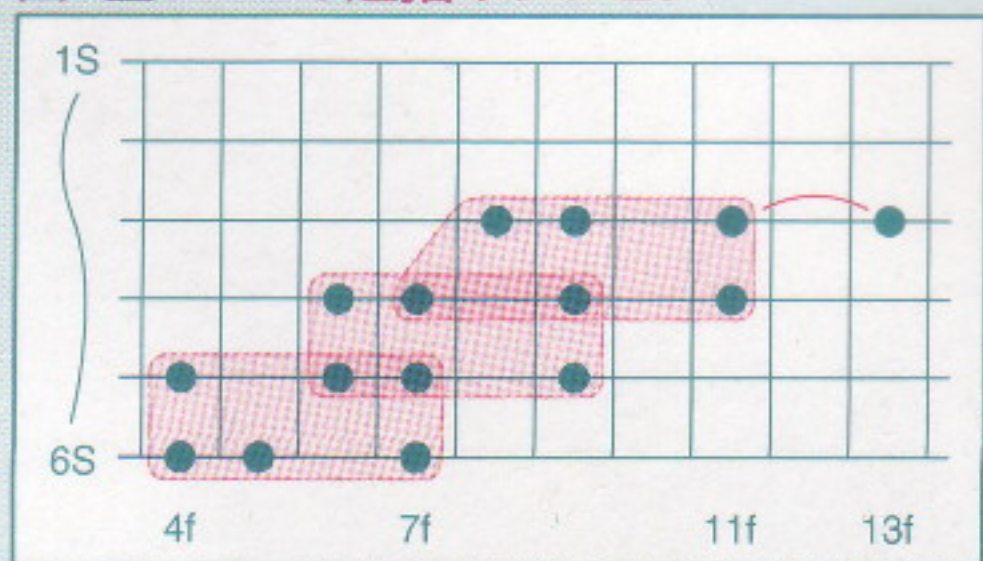
Ex-2

Sequence Lick

視覚的にも覚えやすいスケール上昇フレーズ

●図1の(6音)3ポジションを移動。スケールはG#フリジアン(6弦開放E音から“ド・レ・ミ…”と弾いた延長上にある)。最初は1ポジションずつに分けてのピッキング練習!

図1 Ex-2の運指ポジション

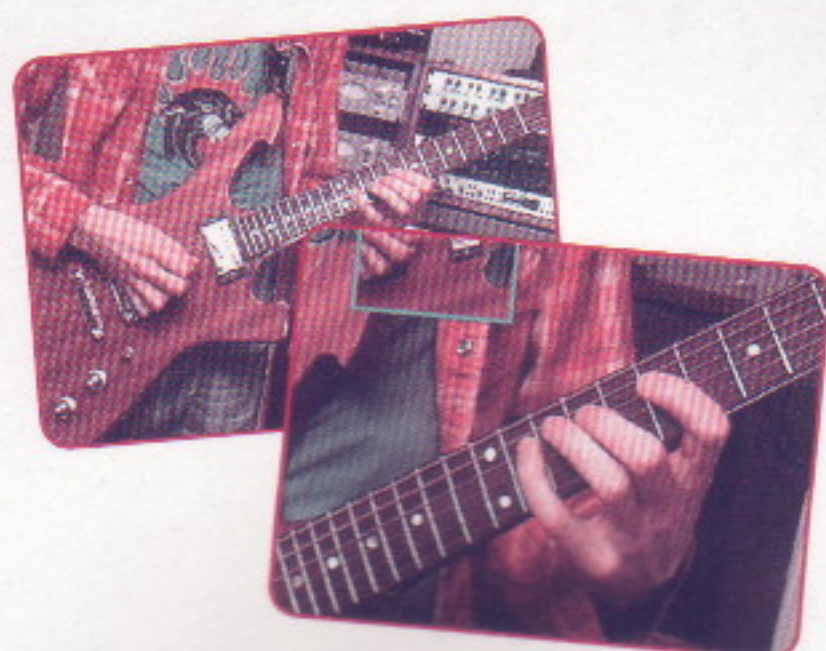


インスト第2弾「SILENCE FOLLOWED BY A DEAFENING ROAR」の“咆哮”が鳴り響くのは1月22日。あと暫くの辛抱だが、それまでの間、ポールの最新フレーズを収めた今月の付録DVDをお楽しみ頂きたい。プレイのスッ翔び具合は言うに及ばず、ギルバート魂溢れるアイデアの数々…、必ずや満足して貰えるはずだ。

以下、譜例に示したフレーズは総てレギュラー・チューニングだが、Demonstration #2 (J.S.バットの「Prelude No.15」をモチーフにしたツイン・ギター・ピース)の[Gt.2]だけ、[6弦を1音下げたチューニング]になっている。ちなみに、[Gt.1]は原曲のピアノ右手高音パート、[Gt.2]は左手低音パート。

巧みなピッキング・エクササイズ

巻1～4のテーマは、ポール流の速弾きパターン。それら総てピッキング編。



まずEx-1は、4～5小節目のFマイナー・ペンタトニックが課題となる。お馴染みペンタトニック系だから軽いジャブ…と思いきや、[1本弦上2音ずつ]弾いて[高音弦側→低音弦側]と動いて行くこのパターンは、右手にとっては強敵。ポール級の速さでこなすには、ピックのスムーズな運びが身に付いていないと難しい。意外な盲点だーと感じる人が多いかも。

多分、それよりも楽に行けるのがEx-2(スケール

はG#フリジアン。6弦開放E音から“ド・レ・ミ…”と弾いた延長上にある)。図1の3ポジションを移動するこれは、この動きを覚えてしまえば、そう苦労する事もないと思うが…。今風だから。

尚、6弦から5弦、5弦から4弦、4弦から3弦、これら移動の際は総て、アウトサイド・ピッキングになっている(6弦から5弦の場合、[6弦ダウン→5弦アップ]がアウトサイド。逆の[6弦アップ→5弦ダウ

**Ex-3****Riff & Lead****リズム解釈が厄介なリード・パート&キャッチーなバックング**

●13~15小節目のフレーズは[6音+8音]=2拍半の繰り返し、一方、21~22小節目は[6音+1音]=1拍半の繰り返しになる。前者の5連符に関しては、[2+3]と解釈しよう。

Music score for Ex-3, Riff & Lead. The score is written in G major (one sharp) and 4/4 time. It consists of six systems of music, each with a guitar staff (treble clef) and a bass staff (bass clef). The guitar staff includes chord names and melodic lines with fingerings. The bass staff includes bass lines with fingerings and rhythmic notation. The score is divided into two main sections: a Riff section (measures 13-15) and a Lead section (measures 21-22). The Riff section features a repeating pattern of chords and a melodic line. The Lead section features a melodic line with a 5-note phrase and a 1-note phrase. The score includes various musical notations such as chords (D, A, D/F#, G, Cadd9, Dsus4, Bm), fingerings (1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12), and rhythmic notation (quarter notes, eighth notes, sixteenth notes, triplets, and rests).

System 1: Chords D, A, D, D/F#, G, D, A, D/F#, Em, Bm. Bass line: 0, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12.

System 2: Chords A, D, C, Cadd9, G, A, D, Dsus4. Bass line: 0, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12.

System 3: Chords D, Dsus4, D. Bass line: 0, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12.

System 4: Chords D, Dsus4, D. Bass line: 0, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12.

System 5: Chords D, Dsus4, D. Bass line: 0, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12.

System 6: Chords D, Dsus4, D. Bass line: 0, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12.

ン]はインサイド)。これがポール流。そうなるように作った、あるいは、身に付いているから自然にそうなった…のどちらか。とにかく、ここは意識した方がいい。

Ex-3の2ポイント、13~15小節目、21~22小節目は、どちらもリズムが肝。数式で表せば、前者は

[6音+8音]=2拍半の繰り返し、後者は[6音+1音]=1拍半の繰り返し…という事。ただ、問題は前者の5連符だ。これで話は一気に厄介となる。ここは「感覚的にコナす」…が適切な対処法だが、リズムをきっちり考えたい人は、この5連符を「2+3」と解

釈すべし。それに則って[6音+8音]を訂正すれば、[6音+(3+2+3)音]という事…だが、やはりタイミングを体で測るという方法がベスト。

Ex-4の8小節目最後~9小節目も、“数”が1つの鍵になる。リズム符は(8小節目最後の6連符もそれ

Ex-4 Riff & Lead

十八番の下降リックを含む速弾きフレーズ

● 8小節目最後の6連符~9小節目は、(12連符だが)五線譜下に区切った“18音ずつ”が1ブロック。これで移動が進んで行く。まず最初の18音で、システム化したパターンを覚えるのが先決。

The musical score for Ex-4 is presented in two systems, each containing guitar and bass staves. The guitar staff uses a treble clef and a key signature of two sharps (F# and C#). The bass staff uses a bass clef and the same key signature. The score includes various musical notations such as notes, rests, and accidentals, along with detailed guitar tablature (numbers 0-24) and rhythmic markings (e.g., 12, 10, 6, 3). The first system covers measures 1 through 12, and the second system covers measures 13 through 24. The score is divided into sections by measure numbers and includes specific instructions like 'gva' (guitar vibrato) and 'H.C.' (harmonic). The tablature is written in a way that corresponds to the fret positions on the guitar neck, with some measures showing complex patterns like 12-note or 18-note blocks.



Ex-5

Skipping

スキッピング多用によるクラシカル・フレーズ

●総てメジャー系のアルペジオだが、総て形は異なる。図2に示した、その5フォームを覚えるのが第一歩。特に見慣れない(1つ目の)[G]、次の[C]は、フィンガリング的にも要チェックだ。



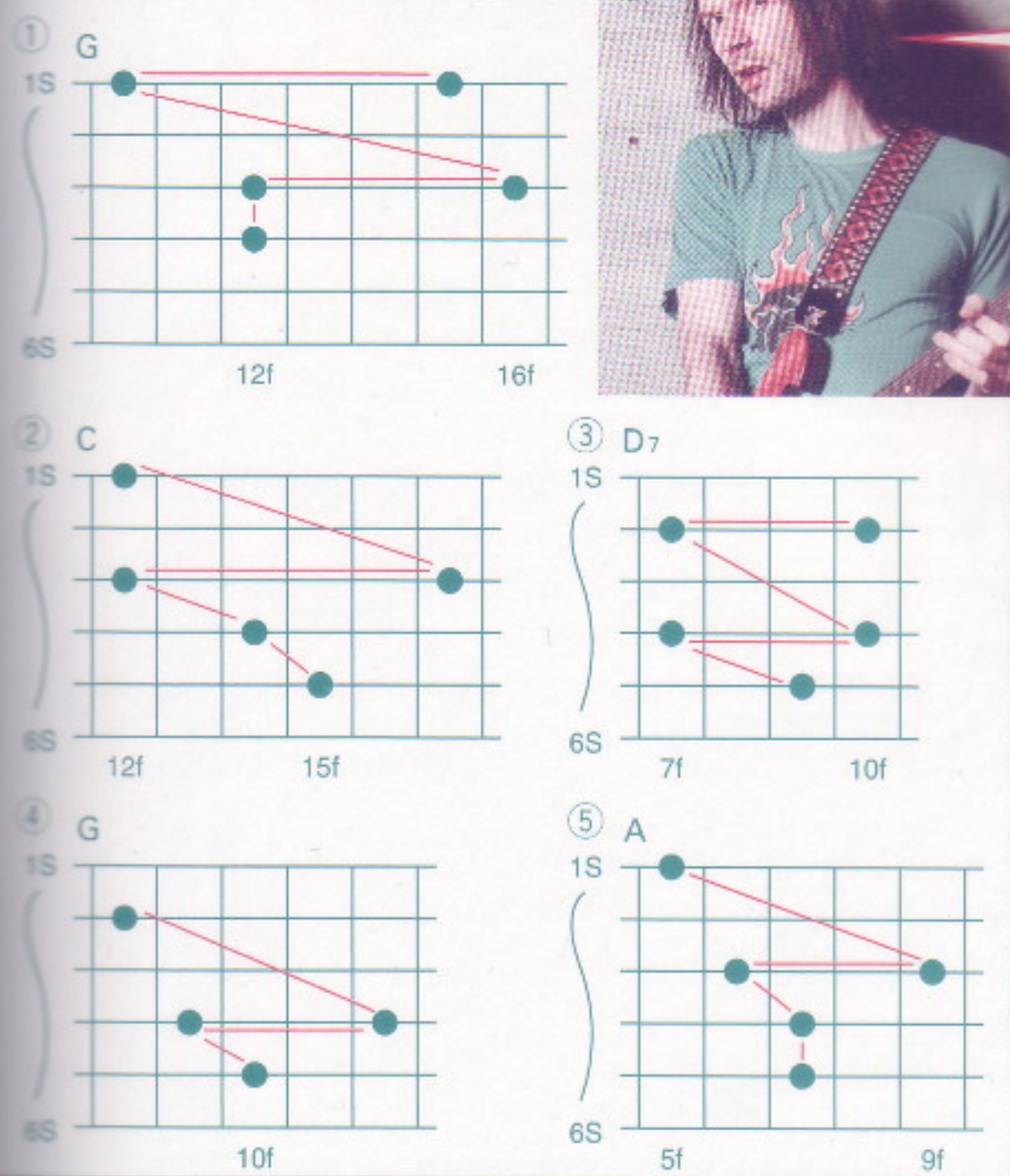
Ex-6

Riff & Lead

ヘヴィ・メタリックなメイン・リフ&スキッピング・アルペジオ

●一般的なメジャー型、マイナー型のフォーム(図3)は、Ex-5よりも楽のはず。ただし、コードの変わり目(小節最後→次小節最初)で[人差指→人差指]となる運指は、飛び切りの速さと正確さが要求される。

図2 ■ Ex-5の小節別運指



今回のDVDで披露した僕のテクニック、
ニュー・アルバムも聴いてチェックしてくれよな!!

「SILENCE FOLLOWED BY A DEAFENING ROAR」/ Paul Gilbert

PAUL GILBERT SILENCE FOLLOWED BY A DEAFENING ROAR

(WHDエンタテインメント CD IECP-10136)



① Silence Followed By A Deafening Roar ② Eudaimonia Overture ③ The Rhino ④ Norwegian Cowbell ⑤ I Cannot Tell A Lie ⑥ Bronx 1971 ⑦ Suite Modale ⑧ The Gargoyle ⑨ I Still Have That Other Girl ⑩ Bultaco Saturno ⑪ Paul Vs. Godzilla

●ポールの変幻自在なテクニックと遊び心を、新たな手法で昇華させた最新オール・インスト・アルバム。今回のDVDでポールがプレイしているリックは、いずれもこの最新作の随所で聴く事が出来る。実際の楽曲の中ではどのように使われているのかを把握すれば、各テクニックをより深く理解出来るはず。以下のパートを必聴ポイントとさせていただくので、CDでも是非チェックを!!

★Ex-1→⑩0'15"~0'29" ★Ex-2→③1'06"~1'08" ★Ex-3→④0'00"~0'58" ★Ex-4→⑪0'13"~0'27"、1'24"~1'59" ★Ex-5→②3'43"~3'50" ★Ex-6→⑧0'16"~0'32"、0'48"~1'10" ★Ex-6'→⑧1'10"~1'16" ★Ex-7→⑦0'00"~0'30" ★Ex-8→⑥0'00"~0'51" ★Ex-9→⑨0'15"~0'29"

図3 ■ Ex-6 / 17~26小節目のポジション

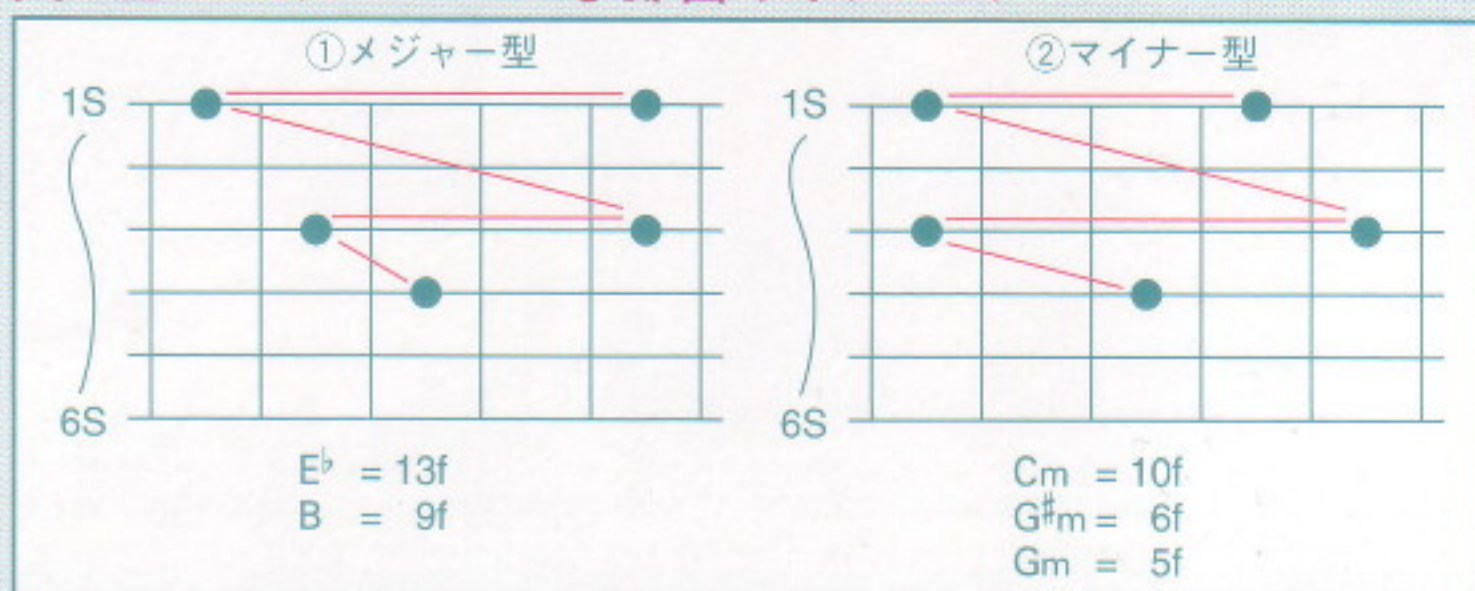


Figure 4: Musical score for Ex-6, measures 17-26. The score is written for guitar and includes Japanese lyrics. The guitar part features various techniques such as Picking Tr., gva, and triplets. The lyrics are: 小 菜 人 菜 小 人 中, 開 人 人 人 菜 菜, 小 菜 人 中 人 小 小 人, 小 菜 人 中 人 小 菜 菜, 人 菜 菜 菜 人 中 小 小小 小 人 菜 菜, 菜 菜 菜 中 人 小 人 菜 小 人 人 人 菜 菜 菜 菜 人.

以降の12連符と同じ速さ)12連符の繰り返しになっているが、実はフレーズの言と“18音”(五線譜下の区切り参照)のリピート。システムティックな動きなので、弾いている内にそのパターンは読めると思うが、「ポールが昔から十八番にしている下降リックだ!」…と気付いた人は鋭い。その通り。'90年代の教則ビデオから演っていた、ポール流である。

お得意のスキッピング奏法

Ex-5は、Demonstration曲の[Gt.1]冒頭のフレー

ズ。映像を観れば「ああ、スキッピング系ね」と分かるはずだが、このフォームが中々クセもので…。1つ目の[G]や[C]辺りは馴染み薄のタイプ(図2参照)。上手く弾く事より、まず1つ1つを覚える事に専念した方がよさそうだ。

Ex-6のアルペジオ・パート(17~26小節目)もスキッピング式。こちらのフォームは図3に示した、いわゆる一般的なメジャー型、マイナー型の2種類のみ。あとはそれを移動して行くだけだが、ただ、あるフォームから次のフォームに移る際、常に人差指が続く…

という運指が大問題(例えば、[E]最後の3弦12f→Cm最初の1弦8f)は[人差指→人差指]。コードの変わり目は総てこれ。映像を観ると、ポールはイトも簡単にそこを通過しているが、実際に演ってみると、これがどうして中々。音の途切れを完全に無くすには、かなり瞬間的な速さが要求される。ここは大きな奏法ポイントだ。

尚、このフレーズ最後の“1弦+2弦フレーズ”は、[4分の3拍子]の譜面上に分かりやすく記譜出来なかったため、Ex-6'として別に載せた。

Ex-6' Lead Phrase

Ex-6のエンディング速弾きパート

●Ex-6最後のリック部分。[4分の3拍子]では明快なリズム符に出来ないため、別に記譜した。7f=薬指は問題ないと思うが、7f=小指は鬼門だ。ここはピン・ポイントで鍛え上げたい。

Ex-6' and Ex-6 musical notation. Ex-6' is a lead phrase in 4/3 time, featuring a repeating pattern of eighth notes and rests. Ex-6 is a fast arpeggio part, also in 4/3 time, with a complex sequence of notes and rests. Both parts include guitar-specific notation like 'P' (pick), 'H' (hammer-on), and 'S' (slide).

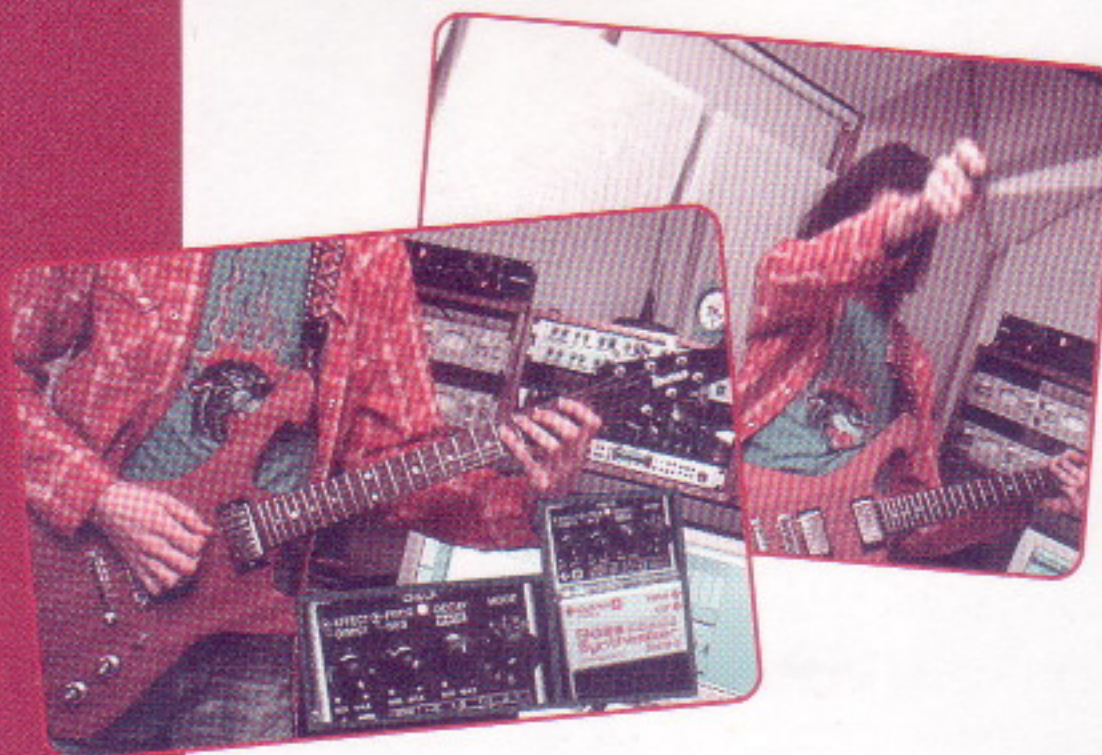
Ex-7 Lead Phrase

正確なレガート・テクニックが必須のクラシカル・ピース

●サスティナーの持続音を駆使したメロディー。ピッキングは弦が変わる際に軽く。あとはノン・ピッキングの完全レガート奏法だ。音が弱まりやすいプリングで、逆に大きい音を出す(本文参照)。これが鍵。

Ex-7 musical notation. It is a lead phrase in 4/3 time, featuring a complex sequence of notes and rests. The notation includes guitar-specific notation like 'P' (pick), 'H' (hammer-on), and 'S' (slide).

レガート(ハンマリングやプリング)だけで音を消さず、減音させずに繋いで行くのはそう簡単な事ではない。確かな音、綺麗な音を出す、これが課題だ。特にプリングは、プリングするその指で弦を弾く、そん



●6弦のハイ・ポジションをベンドしながら、ウアイオリンの弓でそれを弾くと、モンスター級の「咆哮」といった趣。

素早い6連フレーズも含むリフ・パターン

●BOSSのベース・シンセを使用したスペースチックなオート・ワウ的サウンドのリフ。そのツマミ・レベルはDVD映像に出ている。エフェクターを持っている人は是非参考に。

[illegible]